

麻生副総理 基調講演
国際金融協会(IIF)春季総会 (仮訳)

2019年6月6日(木)

- 2008年以降、G20は国際的な課題対応における協調の場として重要な役割を發揮してきた。危機が去った今現在においては、G20は世界経済の長期的かつ構造的な課題に対応すべき。福岡 G20 会合で取り上げる論点をいくつか紹介したい。

- 第一に、世界経済。
 - ・ 世界経済は、予想よりスローペースではあるものの、拡大を続けている。一方で、リスクは下方に偏っている。強固で、持続可能で、バランスの取れた、包括的な成長という G20 の目標に向けて取り組みを続けていきたい。

 - ・ 日本では新天皇が即位し、令和という新たな時代を迎えた。令和は美しい調和という意味であり、我々が実現したいと望む世界を表している。

 - ・ その世界に向け、日本では、引き続きアベノミクスによる経済成長に取り組んでいく。

- 第二に、経常収支の不均衡に再び焦点を当てる。
 - ・ 経常収支の不均衡に関する議論は、新しいものではない。

 - ・ 世界で貿易関係の緊張が高まっている今、G20 で、不均衡の是正に向け議論する。

 - ・ 経常収支はかつての姿とは大きく異なる。貿易収支だけでなく、サービス収支や所得収支にも目を向ける必要。

 - ・ 日本でも、2018年に、貿易収支がほぼゼロである一方、所得収支により、経常収支の黒字が GDP の 4%を記録した。

- ・ 経常収支は、各国経済の貯蓄・投資バランスの結果である。
- ・ そのため、グローバル・インバランスは、過度な企業貯蓄や、セーフティーネット不足による家計の予備的貯蓄など、経済構造の歪みを示すサインである。
- 第三に、低所得国における債務の持続可能性と透明性。
 - ・ 低所得国の債務せい弱性と透明性の欠如は、国際社会の懸念。
 - ・ この数十年で低所得国債務を巡る状況は本質的に変容し、民間債権者のプレゼンスが拡大。
 - ・ こうした中、IIF による、債務透明性の原則策定のリーダーシップを評価。
 - ・ 今後も、債務国及び官民双方の債権者による協働が重要であり、IIF と緊密な連携を求めたい。
- 第四に、市場の分断。
 - ・ 開かれた強靱なグローバル金融システムの実現は、規制当局間における共通目的である。
 - ・ しかしながら、規制・監督のクロスボーダーにおける違いは、市場を分断し、金融の安定を損ないかねない。また、持続可能で、バランスの取れた包括的成長を阻害している。
 - ・ ブエノスアイレス・サミットにおいて、市場の分断への対応を宣言した。これは、開かれたグローバルな金融システムを維持する上で、重要な一歩となった。そして、日本議長国は、市場の分断を G20 の優先課題に位置づけた。
 - ・ 市場の分断への対応は容易ではないが、本年 G20 は FSB

や IOSCO の成果により、良い進展を達成してきた。今後の議論において、市場参加者からの貢献も期待している。

(以上)